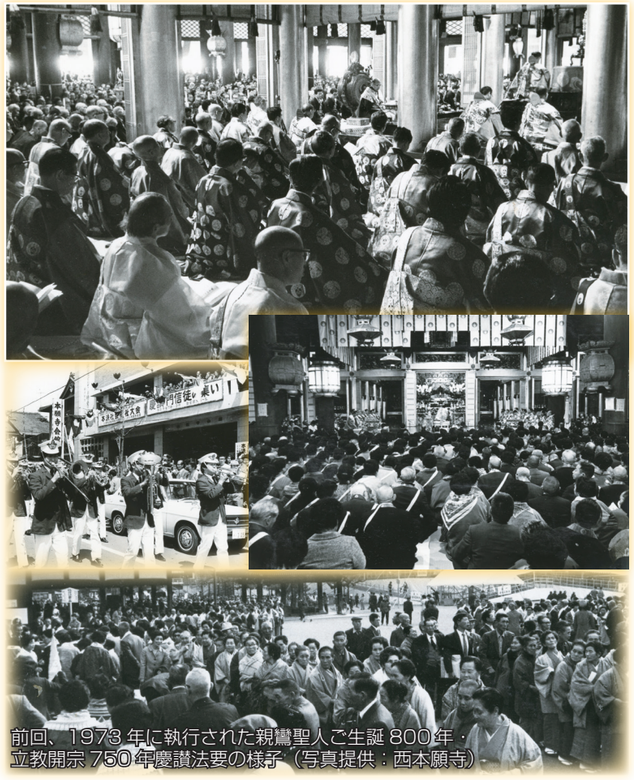
おきなわ

発行　浄土真宗本願寺派
沖縄県宗務事務所
発行人　佐々木　龍三

〒900-0005
沖縄県那覇市天久2-18-2
電　話（098）860-7009
ファックス（098）860-7469
mail ameku2182@yahoo.co.jp

親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年　慶讃法要



前回、1973年に執行された親鸞聖人ご生誕800年・立教開宗750年慶讃法要の様子（写真提供：西本願寺）

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年・慶讃法要（きょうさんほうよう）が京都・西本願寺でお勤まりになります。期日は右表の通り2023（令和5）年3～5月で、5期計30日間にわたります。

昨年10月1日にはスローガンとロゴマークが発表されました。

スローガンは「ご縁を慶び、お念仏とともに」。ロゴマークは、親鸞聖人の命の灯が人々を救い教えを広める様子をイメージし、親鸞聖人を中心に、手を合わせる人々が一つに集い共に生きていく姿を、蓮の形で表現しています。人と人とのつながりから、「ご縁」を感じさせるマークです。今後はお知らせなどに印刷されます。西本願寺ホームページでダウンロードできるのでご利用ください。

法要には、沖縄からも団体参拝を予定しています。詳細は決まり次第ご案内しますので、是非ご参加ください。

法要期日

2023（令和5）年

第1期	3月29日（水）	～4月3日（月）
第2期	4月10日（月）	～4月15日（土）
第3期	4月24日（月）	～4月29日（土）
第4期	5月6日（土）	～5月11日（木）
第5期	5月16日（火）	～5月21日（日）

ロゴマークには様々な色やスタイルがある。これは一例↓

新型コロナ感染拡大に伴い 西本願寺の発信したメッセージポスター（一例。※西本願寺HPから全種ダウンロードできます）

事内行案

1月後半の行事

日曜学校【久米島布教所】
1月17日（日）午前10時～

久米島常例法座【久米島布教所】
1月17日（日）午後7時～

第1回実践運動研修会【沖縄別院】
1月23日（土）午後7時～
講師：梁　裕之 氏（てぃーだこども食堂代表）

宗祖親鸞聖人報恩講【沖縄別院】
1月24日（日）午前10時～
講師:和氣秀剛 師（奈良教区吉野西組圓光寺住職）

2月の行事

門徒推進員連絡協議会発足式・記念講演【沖縄別院】
2月7日（日）午後3時～
講師：岩尾秀紀 師（連研中央講師）

連研のための研究会【沖縄別院】
2月7日（日）午後6時30分～
講師：岩尾秀紀 師（連研中央講師）

常例法座【沖縄別院】
2月14日（日）午前10時～
法話：比嘉　健 師（別院職員）

久米島日曜学校【久米島布教所】
2月21日（日）午前10時～

久米島常例法座【久米島布教所】
2月21日（日）午後7時～

納骨堂総追悼法要（十六日祭）【別院、天久、久米島】
2月27日（土）
別院：午前10時～、午後2時～
天久・久米島：正午～

※各行事につきましては、今後の新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、中止・延期になる可能性がございます。

2021（令和3）年 新年のご挨拶

沖縄県宗務事務所長　佐々木龍三

新年にあたり謹んでご挨拶を申しあげます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で生活様式が大きく変化しました。特区は「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）で「貧困問題」「非戦平和」「人権問題」に取り組んでいますが、これらの問題がコロナ禍によりさらに大きく取り上げられることになりました。

2020年ノーベル平和賞を受賞した世界食糧計画（WFP）のマノジ・ジュネジャ事務局次長は「コロナ発生前は約一億三五〇〇万人が深刻な飢餓に陥っていたが、2020年内に二億七千万人に増える恐れがある」と訴えました。

県内の子ども食堂やフードバンクなどは、コロナの影響が続くとして、食料の無料提供やボランティアなど継続的な支援を訴え続けています。

人権については、コロナ感染者とその家族、医療に従事される方々などへの誹謗中傷が問題になっています。今の状況は、誰が感染しても不思議ではなく、決して他人事ではありません。

私たちは仏の大悲心を学ぶ仏教徒として、おかげさまと、思いやり、支え合うことを大事にしながら、皆さまとともにこれらの問題に取り組んでまいります。

本年も職員一同、宗務と寺務に邁進してまいりますので、よろしくお願い申しあげます。

西本願寺製作の映画「ドキュメンタリー沖縄戦」がロスで受賞!!

西本願寺の宗門総合振興計画の一環で平和学習の視聴覚教材として製作された映画「ドキュメンタリー沖縄戦　知られざる悲しみの記憶」が、アメリカ・ロサンゼルスで開かれた「第15回ロサンゼルス日本映画祭」（2020年10月1～4日）で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞しました。監督は太田隆文さん、製作を担当したのは本願寺派総合研究所。

→←映画チラシ

DVDは全国の教務所に配布されており、研修会などで活用されています。

沖縄県宗務事務所でも引き続き各種団体へDVDの貸し出しをしています。詳細は事務所までご連絡ください。

法話

報恩講のお話

報恩講

金子みすゞ

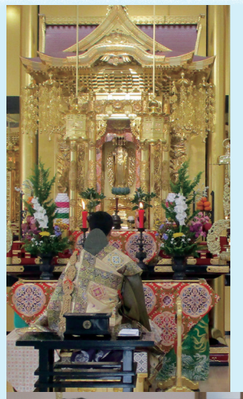
「お番」の晩は雪のころ、／雪はなくても暗のころ。／／くらい夜みちをお寺へつけば、／とても大きな蝋濁と、／とても大きなお火鉢で、／明るい、明るい、あたたかい。／／大人はしっとりお話で、／子供は騒いじゃ叱られる。／／だけど、明るくにぎやかで、／友だちゃみんなよっていて、／なにかしないじゃいられない。／／更けてお家へかえっても、／なにかうれしい、ねられない。／／「お番」の晩は夜なかでも、／からころ足駄の音がする。

（『金子みすゞ童謡全集』ジュラ出版局より）

金子みすゞさんの詩「報恩講」です。みすゞさんの生誕の地、山口県長門市は浄土真宗の教えを喜ぶ人々が多い地域です。その地域の方言で報恩講を「お番」といいます。報恩講には大人も子どももお寺に集まり、みんなで仏さまのお話をお聴聞。大きな火鉢とご法話に身も心もあたたまる。子どもは夜ともなれば普段はすぐに寝かせられるが、報恩講の晩は特別。暗闇を両親や祖父母に連れられて歩き、ワクワクしながらお寺に着くと、いつもよりも大きなロウソクやたくさんの人。お祭りのようなにぎわいに、子どもどうしはしゃいでは叱られる。家に帰ってもなかなか寝つかれない。大人たちは夜通しお寺に集まっているのだから。この詩には、報恩講の夜のにぎやかな風景が切り取られています。

報恩講は、宗祖親鸞聖人のご恩とご苦労を偲び、私たちが心安らぐ温かいみ仏の教えをみんなで聴き、みんなで慶びあう、仲間の集いです。そして、私たち一人ひとりがその教えに照らされて、自分自身の姿をもう一度省みる行事でもあるのです。

沖縄別院では、1月24日（日）午前10時より本堂にて、「報恩講法要」を修行します。ぜひ皆さまお誘い合わせのうえ、ご参拝ください。



前回の沖縄別院報恩講（2020年1月）の様子

●ご門主さまの近刊紹介●

大谷光淳ご門主（西本願寺第25代門主）のご著書『令和版　仏の教え　阿弥陀さまにおまかせして生きる』（幻冬舎）が発刊されました。

お近くの書店や本願寺出版社（0120・464・583）などでお買い求めください。